

手にしっくり 鍛錬の証し



瑠璃釉のマグカップ 飲み口の直径9センチ、高さ9センチ。税抜き4100円。
問い合わせは福岡県朝倉市の工芸店「秋月」（電話0946・25・1270、火曜定休）へ。
外山亮一撮影

温かい飲み物が恋しくなる季節です。ハンドルが手にしっくりとなじむ瑠璃色のマグカップでホットコーヒーやミルクはいかがでしょう。一日の始まりを豊かな気持ちにさせてくれます。

つくっているのは鳥根県の陶工、森山雅夫さん。鮮やかな釉薬glazeを用いた重厚な作品で知られた河井寛次郎の最晩年の弟子でした。16歳から8年間修業し、職人としての技や釉薬の知識を学びました。

このマグカップにもそれが生きています。同県石見地方の白土に石灰釉をかけ、よく乾燥してから瑠璃釉をかけることで深みのある美しい藍色が表れます。森山さん独自の工夫です。

森山さんはハンドル付けの名手でもあります。独立した

20代後半のころ、同じく名手である同県の出西窯の多々納弘光さんに技術を学びました。素焼きの湯飲みに付けてはがしを繰り返し、納得のくまで練習したそうです。

ハンドル用の土はカップ本体よりも細かな粘土を使い、手触りが滑らか。上が薄く、下が厚めのハンドルのフォルムも存在感があります。本体のシャープな形は、もやい工藝のオーナーだった故田野恵一が提案し、森山さんとやり取りする中で生まれました。

河井寛次郎に「立派な陶工になる前に、まず立派な人間になりなさい」と教えを受けた森山さん。その誠実な仕事ぶりと技術の高さで次世代の陶工の尊敬を集めています。

そばに置きたい



（もやい工芸スタッフ）

堀沢三香